

## 市立病院開院時間前の 正面玄関開扉について

市民クラブ

一ノ瀬弘昭

**問** 午前8時から開かれる市立病院の正面玄関ですが、バスやJR等の交通機関を使って来院される患者さんも多くおられ、8時前から正面玄関前でドアが開くのを待つ多くの方々の姿を目にします。

その患者さん達に病院に早く来る理由をお聞きすると、バスやJRの到着時間が早いために仕方がないと言う方が多くおられました。温かい時期であれば屋外で待てますが、冬季であれば健康な方でも大変なことです。

そこで、正面玄関の3枚のドアのうち、1枚だけでも時間前に開けることができないか伺います。

**答** バスやJR等の公共交通機関の到着時間を見ますと、7時40分前後となつていているため、病院の扉が開く前に毎日、30名から50名の患者さんが早めに病院に到着していることは承知しています。

これから夏場ですが、雨が降れば寒い状況もありますし、冬といわず警備の実態や問題点を把握し

早期に対応したいと考えます。

## 災害時の避難所について

**問** 市内で10か所の避難所が指定されていますが、熟知している市民は少ないと聞きます。

この際、半永久保存が可能なマップを作成し、全戸配布することができないか伺います。

**答** 東日本大震災の発生により、市民の防災に対する関心も高まっていますので、避難所を含む避難情報を掲載したマップの作成をできるだけ早急に検討していきます。



市立病院の正面玄関

## 砂川市地域防災計画の 補強・見直しについて

日本共産党

土田 政己

**問** 3月11日に発生した東日本大震災と東京電力の福島原発事故は、これからの「国のあり方」と地方自治体のまちづくりに必要な教訓をもたらしました。

今回の大震災の教訓を踏まえ、今後のまちづくりの指針となる「砂川市第6期総合計画」及び「砂川市地域防災計画」の補強や見直しを行う考えはないか伺います。

**答** 第6期総合計画は、市民の意識調査や審議会における議論を基に策定したものであり、現時点においては見直しは考えておりませんが、実施計画の策定の際には、その時点における情勢、事業成果等を踏まえ、実施計画に反映させていきたいと考えています。

砂川市地域防災計画は、災害対策基本法に基づき、砂川市の防災関係機関がその機能の全てをあげて市民の生命、財産を災害から保護するための対策について定め、砂川市の防災に万全を期することを目的に策定しています。

地域防災計画の見直しについては、本年全面改正を行い、5月に北海道との協議を終え、新たな計画が完成しました。

主な改正点は、地震による大規模な災害の発生を想定した対策内容を加えた「地震災害対策計画」を新たに章立てし、「地震に関する防災知識の普及・啓発」を加えるなど、地震に関する対策を強化しました。また、災害時要援護者など特に避難行動に時間を要する方へ提供する「避難準備情報」の追加、新たな避難所として「地域交流センター」を追加しました。



地域防災計画

## 北2丁目通りのロードヒーティングについて

市民の声

小黒 弘

**問** 市道北2丁目通り（病院通り）のロードヒーティング整備の工事

着工はいつ頃になるのか伺います。

**答** ロードヒーティング整備については、沿道住民の方々に受益者負担の理解を得られれば、第6期総合計画で実施する考えであることから、平成21年11月に沿道の事業所8箇所に対し受益者負担の協力をお願いを行っています。

結果については、7事業所は理解されましたが1事業所だけ賛同が得られないため協議はこの時点で終了しています。

しかし、北2丁目通りのロードヒーティング整備は、必要なものと考えており、今後も沿線住民の方々の受益者負担に対する協力をお願いし、理解を得られなければ、現段階では工事着手はできないものと考えています。

**問** ロードヒーティングの工事費と維持管理費について伺います。

**答** 国道12号線から西5条通りまで461mの整備となるが、概算で約

6千600万円の整備費です。電気代は年間約370万円かかります。

**問** 病院に來られる皆さんにも役に立つ公共事業であるので、市長は政策的判断で受益者負担がなくてもやるべきだと思いが如何か。

**答** ロードヒーティング以外にも北2丁目と西3条通りの信号機の問題や橋上駅もあるので、一体的に病院周辺環境整備事業として、ロードヒーティングは当然だが、

まず、受益者負担について交渉をして、駄目だったら市で整備を行うていきます。



冬の北2丁目通り

## 上原ファームの現状と今後の進展について

公明党

辻 勲

**問** 事業規模について。

**答** 5月末現在で、種雄豚14頭、母雌豚435頭と子豚325頭の合計774頭です。東豊沼第1農場が豚の交配・繁殖舎として操業。離乳舎建設予定の一の沢第2農場と、肥育舎建設予定の富平第3農場が未完成で、計画より低い生産規模です。

**問** 従業員数について。

**答** 3ヶ所の農場全て完成された場合の従業員予定数は20人で、うち、地元雇用10人の当初計画ですが、まだ、第1農場のみの操業です。現在2人の雇用状況です。

**問** 臭気など地域の声について。

**答** 臭いなど環境問題については、苦情等はありません。糞尿による臭い対策ですが、敷地内に建設された浄化槽及び堆肥施設により、適正に処理されています。

**問** 富平、一の沢における養豚場の進捗状況について。

**答** 第2農場は、取り付け道路の工事が行われており、第3農場は、豚舎の外側はほぼ完成、内部の工

事が進められている状況です。

**問** 市内の経済効果について。

**答** 固定資産税や雇用人口増加による直接的なものと、砂川産豚肉が市場に出荷されることによる間接的な経済効果が考えられます。

### CSR（企業の社会的貢献）の取組みについて

**問** 活力ある地域づくりの地域密着型CSRの取組みについて。

**答** 企業・商店会等のCSRを間接的に支援するものとして、一層その活用を周知してまいります。

